

第二段

・ 徳川時代の特徴

出生、家柄、年齢が、決定的な役割を果たす社会。

- ・ 身分制度
- ・ 私たちの現実の行動によって変えることができない。

「である」

大名や武士 → 百姓や町人

支配

× サービスをする

身分的な属性

人々の振る舞い方

- ・ 何であるか。
- ・ 「くらしく」「くにふさわしく」＝基本的なモラル
- ・ 「分」に安んじる。
- ・ 与えられた役割や身分を守ることに専念し、余分なことはしない。

社会の秩序維持

- ・ 同郷、同族、同身分

既定の間柄

- ・ 未知の関係は生じない。

コミュニケーションが成立する要件

- ・ 相手が何者であるかが、外部的に識別される。

服装、身なり、言葉づかい

- ・ 欠点＝一見して相手が何者か分からなければどついつ作法で相手に対していか見当がつかない。
- ・ 利点＝相手が何者であるかが分かれば、ルールを作らなくても、話し合いは軌道に乗る。

- ・ あかの他人の間のモラルは発達しない。

公共道徳＝ヨコの関係

儒教道徳＝タテの関係

君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友